NIIGATA Prefectural Botanical Garden
NEWSLETTER

新潟県立植物園

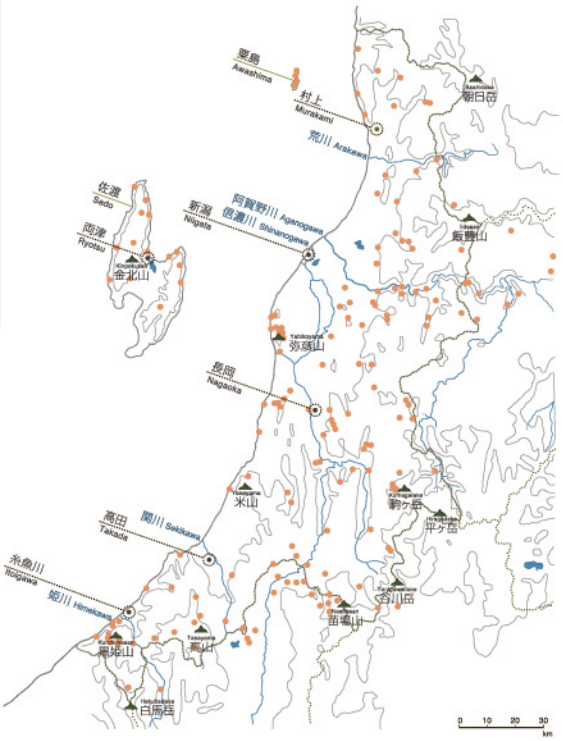
植物園だより

富樫信平画 1981.7.25　新潟県荒川町産

オオウバユリ

Cardiocrinum cordatum var. *glehnii*
〈ユリ科〉

やや湿った林床に生える多年草で、本州中部以北の日本海側、北海道に分布する。ウバユリと比較して、1花序につく花数が多く、草丈も2mに達するなど、全体に大型である。ウバユリも含めて中国原産の*C.giganteum*やその変種の*yunnanense*の栽培は難しく、何度か植栽したことがあるが、数年で見えなくなってしまった。ウバユリは1回繁殖型の多年草であり、開花後に茎の基部に新しい鱗茎をつくるのだが、この交代がうまくいかなかったことが原因だろうと思う。　（倉重祐二）



新潟県内の分布（新潟県植物分布図集 第三集1982より転載）

Volume 29
2007 summer

アジサイ展

ガクアジサイ‘墨田の花火’

企画展示

6月13日(水)-7月16日(月)

アジサイ展

6月13日(水)より7月16日(月)の間「愛されなかった花」をサブタイトルにアジサイ展を開催しています。

アジサイは在来の植物で、新潟の里山にもエゾアジサイが生育していますので、馴染みの深い植物といえます。

平安時代には、庭に植えられていたとの記述がありますので、花の美しさが愛でられていたのでしょう。しかし、植物が多く詠まれている万葉集などの和歌集にアジサイが登場することはほとんどありません。それは、アジサイの花びら(がく片)が4枚であるためヨヒラと呼ばれ死や夜を連想させたことが大きいためのようです。現在では、人気が高く品種を収集している方も多いアジサイですが、海外から新しい品種が導入されるまで、そう人気の高い植物ではありませんでした。

アジサイは、なぜ日本人に注目されなかったのか、アジサイの生態や歴史を紐解きながら解説する他、新品種の展示、栽培方法や繁殖方法なども紹介しています。

さて、これはなに?
答えは
食虫植物展で!

企画展示

ネペンテスヴェントリコーサ

7月19日(木)-9月9日(日)

食虫植物展

地球上には、年中高温多湿な地域や乾燥地域、寒冷地域など様々な環境が存在します。現存する数多くの植物はこのような環境に適応して生き延びるため、多様な形と機能をもつようになりました。なぜサボテンの茎は厚いのか、針葉樹は細い葉をもっているかなど、植物の進化を中心に食虫植物をはじめ身近な植物をとりあげて紹介します。

食虫植物も栄養の乏しい地で生きるため、必要な養分を昆虫などの生物から補っています。一概に食虫植物といっても、はさみ込みや落とし穴、粘る液を出すなど昆虫などの捕らえ方は様々です。食虫植物展では袋を持っているウツボカズラ、水玉のように輝く粘りのある液をだすモウセンゴケなど様々な食虫植物を展示します。これらの食虫植物はどのようにして虫を捕らえ栄養分にしているのでしょうか。食虫植物を大きくした模型や、実物を観察したり触ったりすることができる体験コーナーでその答えをさがしてみましょう。

夏休みの自由研究は食虫植物できまり。

オオオニバス *Victria regia*
1日目は白く、2日目は赤く変化します

アフリカバオバブ *Adansonia digitata*
30分ほどで開花する様は圧巻です

ゲッカビジン *Epiphyllum oxypetalum*
昼でも見られるよう、開花調整します

ツツジ属 ジャスミニフロルム
Rhododendron jasminiflorum
ガが訪れる花は、花筒は長い特徴があります

夜に咲く花
温室

今年当園では、8月の毎週土曜日と12日(日)に閉館時間を8:30まで延長して夜間開園を行います。そこで今回は夜に咲く花をご紹介します。

熱帯植物のスイレンやバナナ、バオバブ、サボテンの中で夜に咲くものの多くは、白く、強い香りのある花を咲かせます。これは、暗くて色や形がわりにくい夜でも動物に正確に見つけさせ受粉させるためです。

ヒカゲツツジの仲間やハマオモト属の植物など昼に咲いている白い花の中にも夜に強い香りを発するものがあり、これらも主に夜活動する動物が受粉する植物です。

夜花を訪れる動物には、ガやオオコウモリの仲間があります。ガが訪れる花は花の筒(花筒)が長く、長い口吻で蜜を吸うのに都合良くなっています。オオコウモリが訪れる花は、大きな体を満足させるだけの多量の蜜を持ち、その蜜を守るために花が硬いがくや苞に覆われているものが多く見られます。夜間開園ではこのような夜咲く花の不思議を紹介する観察会も行いますので、是非ご参加下さい。

(久原泰雅)

園内ウォッチング

アサザ *Nymphoides peltata*

ガガブタ *Nymphoides indica*

ミズアオイ *Monochoria korsakowii*

オニバス *Euyale ferox*

水辺に咲く花
園地

夏が近づいてくると当園の水辺では、オニバス、アサザ、ガガブタなど葉が水面に浮く浮葉植物や、コウホネ、ミズアオイといった葉や茎を水面から出す抽水植物などの水生植物が花を咲かせます。

これら水生植物の中には水位に合わせ葉の形態を変化させるものがあります。たとえばコウホネは、光沢のある抽水葉を出しますが、水位が上昇し、植物全体が水に沈むと浮葉を出します。更に水位が上昇すると柔らかな沈水葉を出します。このように水生植物は環境適応能力に優れていますが、水辺の減少や除草剤の使用などにより減少し、絶滅危惧種に指定されているものが少なくありません。水質が多少悪くても育つオニバスでさえも絶滅危惧種に指定されています。オニバスは1年草で、生育が早く、葉は短期間で1mにも達し、大きいものでは2m以上にもなります。花は紫色で、ゴツゴツした葉のイメージとは対照的に4cm程度と大変控えめです。当園では、福島潟からオニバスの種子を譲り受け、栽培しており、水辺の草花園でその姿を見ることができます。暑い季節に、当園の水辺で水草を観察しながら涼を取ってみてはいかがでしょうか。

(橋本 永)

NEWS 1

「植物園だより」をリニューアルしました

当園は平成10年12月に開園し、今年の12月で10年目を迎えます。10年目の節目の年を迎えるにあたり、「植物園だより」をリニューアルしました。これからも植物園内外での保全や調査活動など、普段来園されても目に触れることのできない活動もわかりやすく紹介していきたいと思っております。

今号から表紙には、冨樫信平さんの植物画を掲載します。冨樫さんは大正4年に岩船郡保内村（現在の荒川町）に生まれ、20代のころから趣味で植物画を描きはじめました。冨樫さんの実兄である誠さんは著名な植物研究家です。描かれた絵は、数、細密さ、そして美しさという点や、自ら添えた解説の詳細さから、植物を愛し、向き合い続けた様子がうかがえます。

（橋本　永）

冨樫信平植物画展

NEWS 2

植物園多様性の保全新潟県立植物園の取り組み

本邦に自生する野生植物7,000種類のうち、約1/4に当たる1,665種が絶滅の危機に瀕しています。

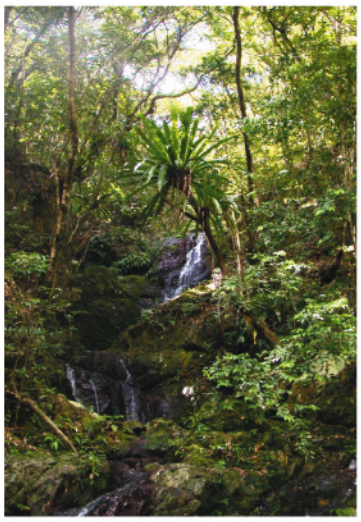
しかし、多くの植物を保有、栽培する全国の植物園でも、絶滅危惧種の38％、695種類しか栽培されていないのが現状です。また、植物園で保全される絶滅危惧植物は、自生地復元や研究に用いる場合、採集地等の情報が重要となりますが、由来の明らかな個体数はこの中の30％しかありません。

そのため、（社）日本植物園協会では、全国の植物園ネットワークをつくり、地域の絶滅危惧植物を中心として、2012年度中に日本全土の絶滅危惧種の50％を収集し、植物園において保全することを目標とする「植物種多様性保全拠点園ネットワーク構想」を策定しました。

当園も、絶滅危惧種の保全を推進するために北陸地域（新潟・富山・福井・石川）の拠点園として参加しています。これまでにもオキナグサ、オニバス、ミズアオイ等について自生地および植物園での保全活動を進めてきましたが、今後も積極的に絶滅危惧種を中心とした野生植物の保全に努めていきます。

日本の植物園における保全の現状を知る格好の資料、「日本の植物園における生物多様性保全」が出版されました。情報センター内事務所で4,000円で販売しておりますので、是非ご一読ください。

（倉重祐二）


着生のシマオオタニワタリが見られる奄美の自然

NEWS 3

日本の熱帯植物植栽

日本の奄美大島以南や小笠原諸島は亜熱帯気候に属し、それ以北の温帯の植物と異なる種類の植物が多く見られます。当園では、今年より熱帯植物ドームの滝周囲に日本の亜熱帯植物のエリアを設けました。

日本の亜熱帯に含まれる地域には、小さな島が多く存在します。これらの島々は、大陸や他の島と長い期間離れているために生物の交流が少なく、独自の進化を遂げた生物が多数生存します。このため、小笠原諸島などでは、これら希少植物の保全活動や他の地域からの生物の移入を防ぐ努力が東京都などにより行われています。

当園ではこれらの植物を積極的に収集、保全しており、ヒメショウジョウバカマやリュウキュウアセビなど新潟県にも自生する植物に近縁なもののほか、野生の状態では1本しか残っていないムニンツツジやムニンノボタンなども展示することで、保全の重要性なども訴えていきたいと考えています。

（久原泰雅）

カシノキラン
Saccolabium japonicum

ヤクシマアジサイ
Hydrangea grosseserrata

ムニンツツジ
Rhododendron boninense

リュウキュウアセビ
Pieris koidzumiana

NEWS 4

植物園の日、花の国際シンポジウム、花の国際見本市、（社）日本植物園協会総会の開催

5月4日がみどりの日に制定されたのをうけ、（社）日本植物園協会では、この日を「植物園の日」と定めました。「植物園の日」は、みどりを愛する人が増えるようにと、植物の大切さを呼びかける全国の植物園での取り組みです。当園でも、「シンポジウム～新潟の豊かな自然と花文化～」や「バックヤードツアー」、「にいなちゃんと学ぼう！　植物クイズ」などのイベントを開催しました。

6月1日からの3日間にわたり、「花の国際見本市」が当園で開催されました。新潟市の全国有数の農地や自然環境、その中で営まれる産業が調和、共存する「田園型政令市」、「“食と花”の政令市」を全国にアピールするため、フラワーデモンストレーションや新品種の展示、花関連産業の見本市が開かれました。また、6月2、3日には「花の国際シンポジウム」が新潟薬科大学で開かれました。

5月30日から3日間、新潟を会場に（社）日本植物園協会の総会が行われ、全国各地の植物園の活動報告や今後の日本の植物園のあり方について話し合われました。そのほか、小須戸で今年開園した日本ボケ公園や、当園および当園で開催された「花の国際見本市」の見学会が行われました。

（橋本　永）

植物園の日　バックヤードツアー

植物園協会総会　ポスター発表

花の国際見本市

新潟の植物

ブタクサ

Ambrosia artemisiifolia

ブタクサは、北アメリカ原産の一年草で、明治の初期に渡来し、昭和に入って急速に広がり、現在では日本全国で見ることができます。

特徴的な切れ込みのある大きな葉をつけますが、野原や路肩などで生育する植物の中で特に目立つ存在ではありません。しかし、花粉アレルギーを引き起こすことで一躍有名になりましたので、名前くらいは聞いたことのある方も多いでしょう。夏の間この花粉に悩まされている方にとってはとんでもなく悪いやつといえるかもしれません。

パッとしたところのない植物ですが、小さな花をよく観察すると、他の植物にはない花の構造をしています。ブタクサはキクの仲間ですので花は総状花序につきますが、キクとは異なり、雨を避けるため花が笠をかぶっているように下を向いています。

花は、虫眼鏡でもないとなかなか確認できないほど小さく、お世辞にもきれいとは言いがたいものですが、一度じっくり観察してみてください。

（田中良明）

新潟の天然記念物

月潟の類産梨

月潟の類産梨（平成18年10月撮影）

類産梨の実・形は縦長

信濃川の支流、中之口川の流域に広がる新潟市南区は、古くから果樹栽培が盛んです。同区の旧白根市にあたる地域には、享保年間（1716～1735年）に栽培が始まった梨栽培発祥の地があります。同じく旧白根市の阿部源太夫が梨の栽培について記した専門書「梨栄造育秘鑑」（1782年）には、100品種が記載され、その中に「ルイサン（類産）」の名が見られます。

「類産」は、現存する最古の梨の品種。文化年間（1804～1817年）に旧月潟村（現南区）の深沢氏が導入しました。現在、南区大別當にある『月潟の類産梨』は、全国でもただ1本残る「類産」の木であり、国の天然記念物に指定されています（昭和16年11月13日指定）。

樹齢およそ200年のこの木は、高さ3m、根元の周長が2.4m、6m四方に枝を張り、晩秋にすこし酸味のある実を300個から400個実らせます。

地元の製菓店では、実をつかった「梨ようかん」がつくられており、「類産」を味わうことができます。

（林　寛子）

友の会通信

友の会では総会と石澤会長による講演会、山菜試食会を行った他、ゴールデンウィークに行った「植物園の日」にテントで会の紹介と植物販売を行いました。夏に向け、視察旅行や自然観察会も計画していますので、是非ご参加下さい。

湯沢植物観察会（H18.8.20）

秋の植物観察会（H18.10.22）

●総会および講演会

5月13日（日）に総会を開催し、昨年度の報告の他、今年度の活動計画（視察旅行、植物観察会など）についても話し合いました。

総会後には、石澤会長より「植物資料の役割と重要性」についてご講演を頂きました。県内の植物標本は、ご自身が集められた40万点以上あるほか、故池上先生が残されたものが30万点程あり、点数だけでも全国に誇る大変貴重なコレクションといえます。植物標本には様々な役割があり、植物の歴史を証明する資料となりうるほか、多く集まることで植物の分布や進化の道筋なども知ることができます。また、県内には文献、植物画なども多く残されていますが、これらは集めて整理し、保存されることで今後の大変貴重な財産となります。総会では、これらの役割と重要性についてお話いただいたほか、現在、県内ではこれらの資料を保存し、活用するための施設が無い問題について話し合われました。

総会の状況（H19.5.13）

石澤会長

きのこ観察会（H18.10.8）

「植物園の日」出展状況（H19.5.5）

湯沢で見た斑入りのエゾアジサイ（H18.8.21）

新潟県立植物園 友の会
平成19年度会員募集

友の会会員を常時募集しておりますので、ご興味のある方は植物園までお問い合わせください。

会員特典

- ●植物園だより、友の会ニュースレター、各種イベント案内の送付
- ●研修旅行、企画旅行などイベントへの参加
- ●観賞温室入館料無料

年会費〈4月より翌年3月まで〉

- ●個人会員 …… 2,000円
- ●ファミリー会員（同居の家族は何人でもご利用できます） 2,500円
- ●賛助会員　一口 …… 10,000円

information

図書のご案内
温室発券カウンターにて販売しています。

「里山の植物」
2,000円
新津丘陵に植生する植物の大図鑑。約800種の豊富な里山の植物の魅力を再発見。

「ようこそ緑の夢王国 新潟県立植物園」
1,200円※お求めやすくなりました
新潟日報夕刊に連載された内容をまとめた一冊。植物に親しむきっかけに、植物園観賞のお供にぜひいかがですか。

「第9回 緑・花文化の知識認定試験」準会場のご案内

- ●試験日：11月11日（日）
- ●申込受付期間：7月下旬～9月中旬
  ※（財）公園緑地管理財団への通常申込期間とは異なりますのでご注意下さい
- ●受験料：一般（高校生以上）2,900円
  子供（中学生以下）1,000円

詳しくは当園までお問い合わせ下さい。

教室　花と緑の教室

会場または集合場所:花と緑の情報センター
参加希望の方は事前に電話でご予約下さい。

8月12日(日)19:00～19:30●ガイドツアー「夜咲く熱帯植物」
講師:久原泰雅(県立植物園)
参加費無料(但し温室入館料が必要です)
集合場所:観賞温室発券カウンター

8月18日(土)13:30～15:00●「バラの育て方・秋の剪定について」
講師:佐藤七郎(新潟ばら会)　定員:30名　参加費無料

9月2日(日)10:30～12:00●「変化朝顔」
講師:石川 昇(新潟変化朝顔同好会)　定員:30名　参加費無料

9月23日(祝・日)時間未定●「イングリッシュガーデン」
講師:ひだのあつこ(有限会社グリーンランドエデン)　定員:30名　参加費無料

9月30日(日)時間未定●「山野草のをつかった苔玉づくり」
講師:片岡 充(片岡笑幸園)　定員:15名　参加費2,000円

体験　花のカルチャープラザ体験教室

会場:情報センター1階　時間:10:00～15:00
※当日随時受付　※受講料は変更となる場合があります。

7月28日(土)・29日(日)
●「自然素材をつかったあたたかみのある小物づくり」
受講料2,000円～　あけびのつる細工 つるっ娘

8月4日(土)・5日(日)
●「黒竹のバランストンボ　ボール紙のトンボづくり」
受講料300円～　藤春工房

8月10日(金)～14日(火)
●「夏休み木とのふれあい工作教室」
受講料400円～3,000円　NPO法人 お山の森の木の学校

8月18日(土)・19日(日)
●「かんたんクラフト教室」
受講料500円　工房竜
●「ハーブで作ろう!楽しもう!」
受講料500円～1,000円　ジャパンハーブソサエティ新潟支部

8月25日(土)・26日(日)
●「夏休みアメリカンフラワー教室」
受講料300円～800円　アメリカンフラワー

9月16日(日)・17日(祝・月)
●「ちぎり絵教室」
受講料300円～　中村澄子和紙ちぎり絵教室

9月30日(日)
●「ハーブ・スパイス・ドライフラワーをつかってのリースづくり」
受講料1,000円～2,500円　あべ由紀子フラワーデザインスタジオ

花と緑の教室特別企画　夏休み親子教室

参加希望の場合は事前にお電話でお申し込み下さい。

7月14日(土)から電話受付開始

7月22日(日)9:00～12:00●「植物標本を作ってみよう」
講師:久原泰雅(県立植物園)　定員:小学生親子20組　参加費無料

7月26日(木)9:00～12:00●「植物標本を作ってみよう」
講師:橋本 永(県立植物園)　定員:小学生親子20組　参加費無料

7月29日(日)10:30～12:00●「食虫植物を育ててみよう」
講師:小坂幸生(新潟食虫植物愛好会)　定員:小学生親子20組
参加費:1組 300円

7月21日(土)から電話受付開始

8月5日(日)10:30～12:00●「食虫植物を育ててみよう」
講師:橋本 永(県立植物園)　定員:小学生親子20組
参加費:1組 300円

8月9日(木)10:30～12:00●「食虫植物を育ててみよう」
講師:永井明子(県立植物園)　定員:小学生親子20組
参加費:1組 300円

8月11日(土)9:00～11:00●「水辺の生き物観察会」
講師:橋本 永(県立植物園)　定員:小学生親子20組　参加費無料

展示

観賞温室第2室　企画展示

●7月16日(月・祝)まで　「アジサイ展」
●7月19日(木)～9月9日(日)　「食虫植物展」
●9月12日(水)～11月11日(日)「人と植物の関わり展2」

観賞温室第3室　住宅内展示

●7月8日(日)まで
「植物画展」　出展:新潟植物画倶楽部
●7月10日(火)～7月22日(日)
「弥彦山周辺生物写真展」　出展:千羽繁雄
●7月24日(火)～8月5日(日)
「木の昆虫展 パート2」
出展:NPO法人 お山の森の木の学校
●8月21日(火)～9月2日(日)
「クラフト昆虫展」　出展:工房竜
●9月4日(火)～9月17日(祝・月)
「和紙ちぎり絵展」　出展:中村澄子和紙ちぎり絵教室
●9月19日(水)～9月30日(日)
「永遠に咲く花」　出展:Bloem Klasse

観賞温室第3室2階　特別展示

●7月3日(火)～8日(日)　「七夕展」
●7月10日(火)～8月5日(日)　「絶滅危惧植物展」
●8月7日(月)～8月26日(日)　「熱帯果樹展」
●7月30日～8月5日(日)　「大輪朝顔展」
※会場:第3室住宅花壇
●8月28日(火)～9月2日(日)　「変化朝顔展」

夏休み夜間開園

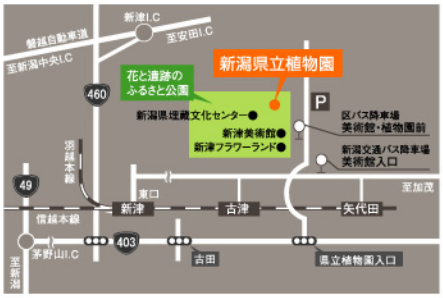
8月の毎週土曜日と8月12日(日)は20:30まで温室の開館時間を延長します(入館は20:00まで)。オオオニバスやサガリバナなど夜に咲く花や夜に香りを放つ花など、普段目にすることができない熱帯ドーム内の夜の様子を、暑さが和らぐ時間帯にぜひお楽しみ下さい。

観賞温室利用案内

開　館●9:30～16:30(入館締切16:00)
入館料●大人600円、シルバー(65歳以上)500円、小中学生100円
※土日祝日は小中学生の入館料無料です。
休館日●毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
但し、展示の入替等により臨時休館する場合があります。

7月～9月の臨時休館・開館日
●休館／7月18日(水)、9月11日(火)
●開館／7月30日(月)、8月13日(月)、9月25日(火)

交通アクセス　※駐車場無料(350台収容)
高速道路●磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路●(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
JR●信越線古津駅から徒歩約20分
バス●区バス／新津駅東口から「うららこすど」行き
「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
●新潟交通／新津駅東口から「矢代田経由白根・潟東営業所」行き
「新津美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園
〒956-0845　新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465　FAX.0250-24-6410
Eメール　botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ　http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者　財団法人 新潟県都市緑花センター

ISO 14001 JAQ EC04J0397
JAB EMS Accreditation RE009
登録範囲は、事務局、鳥屋野潟公園事務所、紫雲寺記念公園事務所、県立植物園です。
PRINTED WITH SOY INK 大豆インクで印刷しています。
R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用しています